

# 1 幕末の良港・桃崎浜の繁栄を偲ぶ

江戸時代、胎内市の桃崎浜は、村上市の塩浜、海老江市とともに荒川三途と呼ばれる新潟県北部沿岸の良港で、糸魚川、直江津今町、出羽崎、新潟県などとも北前船の寄港地でした。桃崎浜では船船問屋が繁栄し、その船は、南は瀬戸内海、北は北海道方面まで活躍しました。



**桃崎浜文化財収蔵庫**  
北前船の船主や船頭は、大坂などの有名絵師に自分の船を描かせ、海上安全の祈願や商売繁盛の兆を占めて、船海守護神である神などに奉納しました。胎内市にはこうした船絵が数多く残っており、桃崎浜はじめ、荒川、中村、山原、村松浜などの神社から発見された船絵は182枚に及びます。桃崎浜文化財収蔵庫に所蔵されている船絵馬85枚と2隻の模型船は、国の重要文化財に指定されています。  
■見学は事前予約が必要です。胎内市生涯学習課 ☎0254-47-3409

**黒川郷土文化伝習館**  
荒井川の野澤家・細野家は北前船交易の船船問屋、地主などをしました。黒川郷土文化伝習館には因国屋善有文化財野澤家の写真や、細野家に伝わる民具が展示されています。  
☎0254-47-3000

**村松浜・金刀比羅神社**  
村松浜の廻船問屋・中野家五代目安之丞が海上安全の守護神として因国から分霊したもので、市指定文化財の本殿は保元(1835)に完成しました。社殿は丹精をつけた見事な彫刻で飾られ(表紙左上真)、社地の森林や彫刻の池と相照し、四季を通じて美しい姿を見せています。

**乙宝寺**  
736年聖武天皇の勅諭による開山で、「今昔物語」「古今著聞集」にも登場している越後屈指の古刹です。松尾芭蕉が奥の細道の行路で参拝したことも知られ、境内には芭蕉の句碑があります。元和6年(1620)村上天建立の三重塔は、純和様建築で美しい国の重要文化財に指定されています。  
☎0254-46-2016

# 2 まちなかに残る宿場町・中條の面影

中条は、中庄は奥山といわれ荘園が存在し、鎌倉時代に徳政に中条氏が支配しましたが、上杉謙勝の会津移封に従って中条氏が当地へ移った。鎌倉は復興し、近世は米沢城下と男羽浜町が交わる要所の宿場町として発展しました。江戸時代の中条は熊野宮神社村定の奉道町の宿場町が建ち並び、元禄年間には六斎市が街になって、近郷の市場としても栄えました。享保3年(1690)創立の熊野宮神社をはじめ、江戸期や明治期に建てられたお寺、新築、商店、土蔵などが、宿場町・中條の面影を伝えています。



**熊野宮神社・その周辺**  
1 周辺の流れる新川 2 熊野宮神社 3 商店の土蔵  
4 熊野宮神社 5 熊野宮神社 6 ときや旅館の土蔵  
7 熊野宮神社  
8 熊野宮神社  
9 熊野宮神社  
10 熊野宮神社  
11 中条市  
毎月3と8のつく日に熊野宮神社周辺で開催されます。元禄年間から続いている別名「三八市」。地元の野菜や魚の他、生活用品などが並び、町の人々はもちろん観光客にも親しまれています。

# 3 新発田に花開いた城下町文化

胎内市西条にある曹洞宗の寺院。東洋文学者で衆人、書家としても知られる倉本貞一は、昭和20年(1945)4月の東京大空襲で家や書物のすべてを失い、遠城にある胎内市西条の丹羽家に、養女キナ子とともに疎開しました。しかし、キナ子はほどなく病死。悲しみの歌がうまれた。太徳寺に建立された墓碑には、西条で暮れたときにも自ら一筆の観音像が添えられています。  
☎0254-44-7737

**奥山荘歴史資料館・江上船跡**  
中庄・中条氏の居館・江上船跡は、平地の水堀と土原に囲まれた典型的な方形居館です。奥山荘歴史資料館では、中条氏ゆかりの品々が展示されています(国史跡)。  
☎0254-44-7737

**新発田城**  
初代藩主清川秀勝が慶長7年(1602)に築城し、3代村直直のときに完成しました。新発田城はかつて本丸、二の丸、三の丸からなり、堀や土居が囲まれ、新発田川の水を巡らせた平城で、日輪の櫓や5層の門が雄大な景観を呈していました。中でも、天守閣の代わりに建てられた三層櫓(表紙右下真)、3/5の櫓を配するといった特異の櫓で、全国にも珍しい大造り櫓です。  
平成16年に、この三層櫓、辰巳櫓が復元されました。

**長徳寺**  
長徳寺は、赤穂四十七士の一人・服部安兵衛の生家である中山家の菩提寺。境内には安兵衛が江戸へ免状時に贈られたといわれる松の木(現在2世)があります。山門の脇には義士堂があり、四十七士の木像が納められています。

**清水園**  
3代藩主直直のとき清川家の下屋敷として造られ、清水谷御殿とも呼ばれていた。庭園は、全盛期の元禄年間に専修水谷の藤吉園を模して造園させたもの。近江川をとり入れた純京都様で、中央に草書風の「水」の字をかけた石灯籠のある回遊式の庭園です。  
☎0254-22-2659

**新発田茶道**  
新発田には、伝統的に受け継がれている石州茶道があります。代藩主直直は、石州流の高弟、松茂宗保に茶の教えを受け、5代寛文に伝えた茶流を新発田に広めました。茶道とともに、和菓文化も栄え、今でも多くの和菓子店が賑わっています。

**新発田の茶道と和菓子**  
「金瓶梅」の著しめながら、「てはじまは花嫁人形の詩の作者高谷虹屋は新発田町(現、新発田市)生まれ。15歳で上京。22歳のとき竹久夢二の紹介で『少女面影』に挿絵を描いてデビュー。そのモダンな作風が読者の熱狂的な支持を得て、一種人気スターになりました。画家、イラストレーター、詩人、グラフィックデザイナーなど、一人何役もこなす多才なアーティストでした。』  
☎0254-23-1013

# 4 新発田川とともに暮らす

初代藩主秀勝が、新発田城城下町と城下の郡市街の原、新発田川が開閉されました。戦略的な防衛のための城下町を築き、物産を流通する水、生活用水として、江戸から明治・大正時代にかけて新発田を支えるものでした。戦後生活様式の変化で役割は減りましたが、現在も江戸時代の面影を今も残っています。新発田川に沿って散策してみれば、新発田川とともにあった当時の暮らしの面影に出会うことができます。

**石泉荘**  
石泉荘(石倉家住宅)は、庭の中央を新発田川が流れており、昭和初期までは民産品が売られていた。建物は明治時代の建造で、登録有形文化財に指定されています。庭を眺めながら、抹茶やお弁当がいただけることもできます。  
■半年半予約 ☎0254-22-3383

**寺町裏〜三ノ町・四ノ町界隈**  
石泉荘を出て清水園を渡った新発田川は左へ曲がり、寺町裏、そして町人町であった越後三ノ町(石ノ樋町、越後町、指物町)や四ノ町(田・村木町、相屋町、上定役町、築地通)へと流れています。嵐や洗い場などが、新発田川が物資運搬路や生活用水であった頃の面影をとめています。

**白勢長屋周屋(四ノ町)**  
明治20年頃、白勢氏が建てた総二階12軒長屋の軒が並んでいて、建物から平気臭い臭いが漂う。古い建物や倉庫が軒を並べ、魚市場、風呂屋の煙突や機織機が現存するおもしろい観光スポットです。かつて、三ノ町よりも越後に最も数の多い定期市・十斎市が立てられていました。

**三ノ町・四ノ町の台輪格納庫**  
城下町新発田まつりで曳き出される台輪が収蔵されています。三ノ町の格納庫(写真右)は、まっぴろげな古く、こどもたちが曳き出す牛車や機織機が軒を並べ、格納庫が軒を出され、まっぴろげが透り上がります。四ノ町台輪蔵は、新発田町の財政を支えた西白勢家の邸宅跡に建てられています。

**長徳寺**  
長徳寺は、赤穂四十七士の一人・服部安兵衛の生家である中山家の菩提寺。境内には安兵衛が江戸へ免状時に贈られたといわれる松の木(現在2世)があります。山門の脇には義士堂があり、四十七士の木像が納められています。

# 5 全国屈指の豪農、今に伝わるその栄華

近代の豪農として、奥山田の大地主が数多く存在していましたが、その原動力は江戸時代前半に形成された水運の発達と成長した農村の積蓄が大きな要因です。積蓄、買収など土地の流通が盛んに行われた。商人、酒造家、村役人などが地主になるものが現れ、さらに広範囲に土地を蓄積して大地主になったのです。その代名詞は米蔵です。市島家は丹波屋の出で、新発田藩初代藩主戸田勝興によって五十鈴町(新発田市)に移住した。のちに水原村(岡野町)に移り米蔵を営んで大きく発展し、土地を蓄積を進めた。地味、地主として成長を続け、幕末には町奉行を超える巨大地主となりました。大正13年(1924)奥山田の積蓄によると、千石以上の巨大地主は北海道だけで9ありましたが、そのうち新発田が5家を占め、うち3家は新発田地域の市(市島家、白勢家、藤澤家)でした。

**市島邸**  
現在の市島家住宅は、戊辰戦争で旧邸(阿賀野市)が焼失したため、明治5年(1872)に現在地に建てたもので、敷地8,000坪、建坪600坪の雄大な邸宅(12棟)があり、国の重要文化財に指定されています。庭は、池を囲む四季折々の景観が楽しめる回遊式庭園。市島一族出身の市島春樹や、祖父一族出身の市島九郎の墓など、由緒ある土蔵の繁栄ぶりを伝える品々が展示されています。☎0254-32-2555

**二宮邸**  
二宮家の繁栄は、加治川金銀の大地主であった白勢家の土蔵を管理する茶屋代として始り、白勢家の貞直期から農地改革まで、その隆盛を維持しました。現在はかなりの所有施設を残し、敷地の一部小川でしたが、美しい日本庭園や、250坪ものソウチキ草が咲き誇る大川、土蔵跡などに所有する屋敷は約3,000坪に及びます。二宮邸から望む丹波屋公園の南は、かつて二宮家の私邸でもありました。  
■バラの時期のみ一般公開しています。(公開期間:5月下旬〜6月中旬)

# 6 天領のまち・県政発祥の地・水原

水原は白河町と鶴巻町から栄えてきたが、地盤であった大見氏が水原と世を定めてきた。その後、水原氏が上杉景勝に頼り、津和野と新発田の領地となり、街道の要所として六斎市が開かれていた。延享3年(1746)には、藩府直轄として、水原城跡に代官所が設置されました。代官所の主な職能は年貢の徴収や民衆の救済ですが、特に水原代官所の場合はこの地方の豊かさを生み出すために、米穀取引(買取高6〜10万石)を確保することや、福島藩の発展、及び新発田・村上藩の発展が目的でした。水原代官所は以降22代まで続きましたが、明治元年(1868)7月に123年の歴史に幕を閉じました。

**孝順寺(旧藤澤邸)**  
かつて日本有数の大地主であった藤澤家の邸宅を本堂とした寺。大層な邸宅を本堂や回廊造りの大庭園にたたずませ、見応え十分です。越後七不思議のひとつ「保田の三度焼」に有名です。  
☎0250-68-2434

**五十嵐邸**  
旧藤澤村(現在の阿賀野市)に多くの農地を所有した大地主で、農地改良のほか明治の県政、財界に影響を及ぼしました。4代、5代の五十五嵐氏はともに新潟県選出の貴族院議員を務めています。その住まいは現在、結婚式場、和・洋料理の「五十嵐邸ガーデン」として活用されています。  
☎0250-63-2000

**聖籠山宝積院**  
越後三十三箇所札所の第二十九番札所。曹叡の遺中風にて高(聖籠山の森)に流れてきた若者・百合香を助けた縁・縁九の伝説が残る寺院で、縁九を供養するために彫られた十一面観音像が納められています。初代発願主・藤澤秀勝も深く信仰していました。

**報恩寺**  
山出温泉にある曹洞宗の寺院。行基が開山した当時は真言宗で、30数坊の伽藍があったとされています。現在の本堂は戦後に再建されたもので、後援者や信者の場として、多くの人が訪れます。境内には、在道出身の金太家・関田家の2人が俳句や歌人の相馬御風が詠めたことを示す石碑や共同浴場があります。

**水原代官所**  
廃絶から127年経った平成7年(1995)8月25日、残された資料に基づいて復元されました。往時の様子を実感し再現し、和室もタイムスリップをしたような驚きと感動があります。  
☎0250-63-1722

**ふるさと農業歴史資料館**  
水原代官所に隣接するこの施設は、越後府庁舎の原型の本館、農具や民具など、貴重な資料が展示されています。また、阿賀野市の特産品も販売しています。  
☎0250-63-1722

**越後府跡**  
越後府は、明治政府の中心機関として明治2年(1869)2月から翌年3月まで、豪農市島家の別邸跡(通称「天朝山」)に置かれていました。現在は公園として整備され、越後府正門に連なる建物の上にあった矢倉が再現されています。

**水原六斎市(四八市)**  
越後府跡(天朝山公園)の裏手、通称「市場通り」で4と8のつく日に開催され、数軒の商店が並びます。代官所が開かれた江戸時代には、新発田、三津と並ぶ越後三大市場の一つに発展しました。野菜、果物、魚、海産物、花き水、衣料品、農具、菓子、日用雑貨などあらゆるものが販売され、特に食料品では地産産物で地元産品や新鮮な朝採り野菜や山菜など、内陸の露天市場ではのびやかなりが並びます。

**無為信寺**  
親賢聖人の高弟24人の人、無為信房を開基とした浄土真宗末宗派の名刹。元永は永享年間(1264〜75)に、会津に建てられたと伝えられています。寛政12年(1800)、大地主佐藤伊兵衛がここに再興。天正2年に本殿と客殿を焼失しましたが、金剛田跡をはじめとする因・県指定文化財を所蔵しています。

**新築本泉(旧藤澤邸)米蔵**  
本泉の屋号で知られる旧藤澤家は、300年以上続く古く家傳で水原で財をなした豪農。写真の蔵は一万石代官所を築いたと伝えられ、明治26年に建てられたもの。細部まで工夫を凝らした造りで、工人の技術の粋を集めたものであることがうかがえます。菱形の白い地盤がイトノ木など特徴があります。